

**なにわホネホネ団+NPO 法人大阪自然史センター**  
**プログラム名：つくろう、ホネホネすいぞくかん！-金魚編-**

実施場所：エントランス	実施時間：10:00～14:40	
のべ参加者数：235名	主な参加者層：4才位～小学校低学年の子どもと保護者	
<b>プログラムの概要</b>		
<p>アクアマリンふくしまは金魚を常設展示しているおそらく日本で唯一の水族館である。そこで私達は金魚をテーマに来館者と会話し、うつつし絵作業によって魚の形を良く観察し、水槽の展示に親しむことを目的として、金魚のストラップづくりを行った。また、親子で作れる簡単な工作を通して水族館での記憶を持ち帰り、次の来館につなげることも期待した。</p> <p>1：金魚博士による金魚の解説。和金（フナの原形を比較的留める）と穂竜（体長は短く尾びれが4枚など特徴的）の骨格標本を比較し、金魚とは同じ魚の様々なバリエーションであること、アクアマリン生まれの品種「桜ブリストル」等を紹介。2：7種の金魚カードから1枚選び、工作机に移動。3：作り方説明、プラ版配布。4：カードの線画を黒ペンで転写、色塗り。時間があれば水槽の金魚を見に行くよう促す。5：プラ板を切り抜いてスタッフに渡す。6：トースターで焼き、金魚のホネシートと鈴をつけ、金魚袋に入れて完成。7：金魚カードの7種全部を載せたミニ金魚図鑑を渡して終了。【所要時間 20-30分】</p>		
<b>実施の様子</b>		
		
金魚博士の解説とカード選び	一番人気の「桜ブリストル」	鈴、ホネシートをつけ完成
<b>所感</b>		
<p>プラ板でのストラップづくりは幼児から大人まで楽しめ、かつ完成度の高いものができる、失敗も少なく、参加者の高い満足度が得られるプログラムである。シートの内容を変えることで、開催地に合わせたオリジナルの内容を作りやすい。当日は初めての来館者にもリピーターにも、金魚という魚、そしてアクアマリンふくしまという水族館の新たな魅力を感じてもらえたのではと思う。当初は15時まで開催の予定であったが、想定より早く材料がなくなったため14:40で終了した。金魚の水槽の横という効果的な実施場所にも助けられ、大盛況であった。</p>		

なにわホネホネ団+NPO 法人大阪自然史センター

(<http://www.geocities.jp/naniwahone/>) (<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

TEL／ 06-6697-6262 FAX／ 06-6697-6225 E-mail／ [nishizawa@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:nishizawa@mus-nh.city.osaka.jp)

(担当者) 西澤真樹子、五月女草子